

幅広い事業を通じて、社会の発展と地球環境の改善に貢献しています

会社概要

| | |
|-------|---|
| 社名 | 川崎重工業株式会社 |
| 英文社名 | Kawasaki Heavy Industries, Ltd. |
| 創立 | 1878年(明治11年)4月 |
| 設立 | 1896年(明治29年)10月15日 |
| 資本金 | 1,043億円 |
| 本社所在地 | 神戸本社 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 東京本社 東京都港区浜松町2丁目4番1号 |
| 代表者 | 取締役社長 長谷川 聡 |
| 事業所 | 国内20(工場10) 海外4 関係会社123(子会社97、関連会社26) (2009年3月31日現在) |

編集にあたって

本報告書は、当社の環境ならびに社会活動を広く皆様にお伝えするために、1999年から毎年発行しています。今回は、以下の内容に焦点をあてて編集しました。

- 「ミッションステートメント」に謳っている「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」に向けて、当社が環境・社会・経済のすべての側面において、企業の社会的責任を果たしていくという考えを基本に置いています。
- 特集では、「ステークホルダーミーティング」と「国内外の事業拠点での社会貢献活動」を取り上げ、当社のCSR活動の現状を紹介しています。
- 社会性報告では、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス推進体制の整備・強化の取り組み、また、ステークホルダーに向き合う姿として、顧客・従業員・株主・投資家・社会との関わりを紹介しています。
- 環境報告では、企業経営と一体で取り組む「第6次環境経営活動基本計画」への取り組みと新たな目標の策定について紹介しています。

対象範囲：川崎重工グループ全体。ただし環境報告は、川崎重工業(株)とグループカンパニー(主要子会社3社の(株)川崎造船、(株)カワサキプレジジョンマシナリ、カワサキプラントシステムズ(株)を総括した呼称)

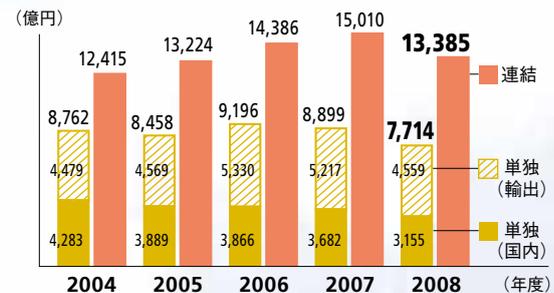
対象期間：2008年度(2008年4月～2009年3月)。
一部2009年度を含む。

発行：年度報告書として毎年1回発行する予定。

発行部門：CSR推進本部(CSR部、地球環境部)：お問合せ先は裏表紙参照

本報告書制作にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」および「GRIガイドライン(2006年版)」を参考にしています。

売上高



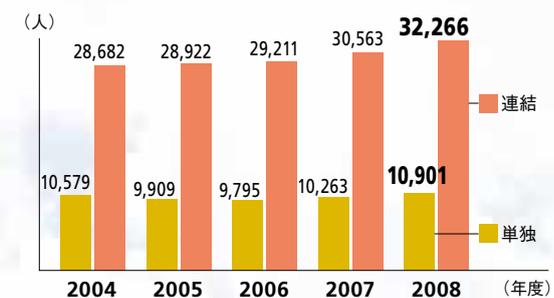
経常利益



総資産



従業員数(期末)



詳しくは：川崎重工「財務ハイライト」

<http://www.khi.co.jp/annual/japanese/highlight/index.html>

事業概要



航空宇宙

産業機械

鉄道車両

環境・リサイクル

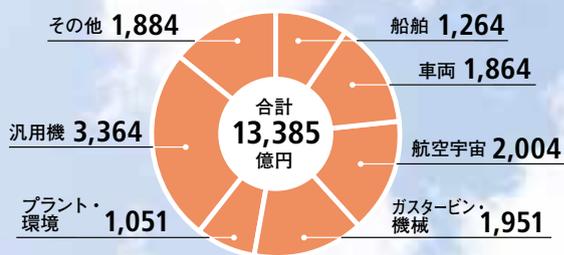
船舶

インフラ整備

エネルギー設備

レジャー製品

部門別売上高(2008年度・連結)(億円)



カンパニーおよびグループカンパニー※1の主要製品

| | |
|--------------------------------------|---|
| 車両カンパニー | 鉄道車両、新交通システム、超低床電池駆動路面電車 |
| 航空宇宙カンパニー | 航空機(各種固定翼機・ヘリコプター) 宇宙関連機器 |
| ガスタービン・機械カンパニー ガスタービンBC※2 機械BC | 航空機用・船用エンジン、ガスタービン発電設備、陸・船用蒸気タービン、各種空力機械 |
| 汎用機カンパニー 装置・土木機械BC | 二輪車、ATV(四輪バギー)、ジェットスキー® 各種貯蔵設備(LNG/LPGタンク)、消防訓練施設、シールド掘進機 |
| ロボットBC | 産業用ロボット |
| (株)川崎造船 | ガス船、その他商船、官公庁船 |
| (株)カワサキプレジジョンマシナリ | 建設機械用油圧機器、産業機械用油圧機器・装置 |
| カワサキプラントシステムズ(株) | 各種産業用プラント、各種産業機械、各種ボイラ、都市ごみ焼却設備、水処理設備、リサイクル設備 |

※1 グループカンパニー：主要子会社3社の(株)川崎造船、(株)カワサキプレジジョンマシナリ、カワサキプラントシステムズ(株)を総括した呼称

※2 BC：ビジネスセンター

目次

川崎重工グループについて

社長あいさつ

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来のために企業としての持続的成長を果たす — 3

P7

特集 1

ステークホルダーミーティング「環境・社会報告書を読む会」



P9

特集 2

国内外の事業拠点で独自の社会貢献活動を展開



社会性報告

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス

社会から信頼されつづけるために ————— 12

顧客との関わり

消防学校での消火訓練に貢献
リアルな火災環境の創出を通じて ————— 15

従業員との関わり

いきいきとした職場へ ————— 17
職場の安全づくりと健康づくり ————— 18

株主・投資家との関わり

株主・投資家の皆様との関わり ————— 19

社会との関わり

社会・人々との共生を目指して ————— 20

環境報告

環境経営

環境経営の推進 ————— 23

温室効果ガス削減に向けた取り組み ————— 25

事業活動のマテリアルバランス・環境会計 — 26

環境経営活動の実績と評価 ————— 27

環境マネジメント活動 ————— 29

製品を通じた環境貢献

製品に対する環境配慮

川崎重工グループの主な取り組み ————— 31

二輪車・ジェットスキー®などの汎用機部門における取り組み — 32

環境配慮製品 ————— 33

環境ソリューション製品 ————— 35

生産現場での環境配慮

生産活動における環境負荷低減 ————— 37